

メタロ・バランス(MB)検査とは

血液中の亜鉛など17種の微量元素濃度を測定し、「特定の疾患」がある人と健康な人の微量元素濃度のバランスの違いを解析することで、その「特定の疾患」を発症するリスク(可能性)をスクリーニング(ふるい分け)評価し、自覚症状が出る前・より早い段階での疾患の発見を目指すまったく新しい検査です。

この検査は、血液採取でのリスクを評価するものであり、「特定の疾患」について確定診断するものではありません。また、1年後の将来の発症を予測するものではありません。

※「特定の疾患」とは検査項目の疾患(大腸がんや胃がん等)を指します。

メタロ・バランス検査の特徴

6mlの採血で検査ができます。
がん(男性6種類、女性9種類)のリスクが判定可能。
早期のがんにも対応した検査です。
採血のみの簡便な検査で、事前準備も一般的な採血と変わりません。

採血で検査可能!



病気と微量元素濃度

人体の生命活動に不可欠な元素のうち、体内の量が比較的少ない元素を微量元素といいます。微量元素は正常な生命活動をするうえでとても重要です。微量元素は血液中にも含まれており、健康な人の血液中で微量元素は一定の濃度に保つようにコントロールされていると考えられています。一方で、病気になると血液中の微量元素濃度のバランスが変化することが分かっています。この微量元素濃度のバランスの違いから、現在の健康状態や病気の可能性を明らかにする手法をメタロ・バランス(MB)といいます。この17種類の元素濃度バランスからリスク判定を行う検査がメタロ・バランス検査です。

血液に含まれる17元素

- | | |
|--------------|---------------|
| ① Na(ナトリウム) | ⑩ Zn(亜鉛) |
| ② Mg(マグネシウム) | ⑪ As(ヒ素) |
| ③ P(リン) | ⑫ Se(セレン) |
| ④ S(硫黄) | ⑬ Rb(ルビジウム) |
| ⑤ K(カリウム) | ⑭ Sr(ストロンチウム) |
| ⑥ Ca(カルシウム) | ⑮ Mo(モリブデン) |
| ⑦ Fe(鉄) | ⑯ Ag(銀) |
| ⑧ Co(コバルト) | ⑰ Cs(セシウム) |
| ⑨ Cu(銅) | |

メタロ・バランス検査の結果に影響を与える可能性がある疾患

疾患	MBスコアが高値となる可能性のある疾患
大腸がん	大腸ポリープ、大腸炎、過敏性腸症候群
胃がん	胃ポリープ、ピロリ感染症、機能的胃腸症、胃・十二指腸潰瘍
肺がん	肺炎、肺気腫、慢性気管支炎
すい臓がん	膵炎
肝臓がん	肝炎、肝硬変
前立腺がん	前立腺肥大、前立腺嚢胞
乳がん	乳腺症、乳腺炎、乳腺線維腺腫
子宮・卵巣がん	子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍

左記の疾患はメタロ・バランス検査に影響し、MBスコアが高値となる可能性があります。

左記の疾患がある方でも、がんに罹っていらっしゃる可能性はありますので、結果の判断につきましては、担当医とご相談ください。

医療法人 弘善会 矢木脳神経外科病院

TEL.06-6978-2307 FAX.06-6978-2308

〒537-0011大阪市東成区東今里2-12-13



医療法人 弘善会グループ
Medical Corporation Kouzenkai

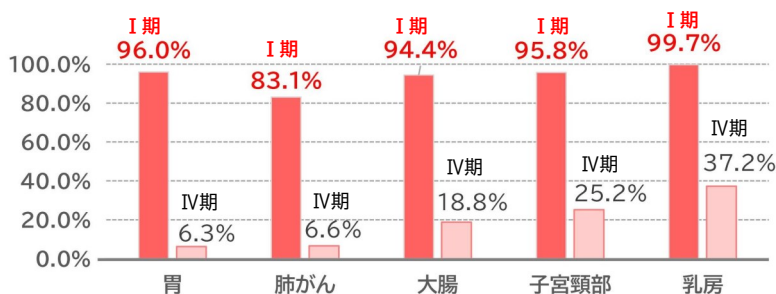
がんリスク検査

男性6がん・女性9がん対象

部位別の検査結果をお知らせ

がん早期発見の重要性

I期とIV期で発見された時の5年相対生存率の比較



がんの治療には、早期発見が重要です。病期(ステージ)が早期であれば早期であるほど、がんが治る可能性が高くなるだけでなく、仕事との両立もしやすくなり、がんの治療が身体的にも、経済的にも、心理的にも軽くなります。

しかし、早期がんは自覚症状がないものも多く、見つけることが困難です。

日本人のがんが増えている一方で、がん検診受診率はOECD加盟国30カ国の中で最低レベルです。

出典:がん診療連携拠点病院等院内がん登録 院内がん登録集計結果閲覧システム 2012~2013年5年生存率

がんリスク検査の結果について

がんを発症しているリスクをメタロ・バランス(MB)スコアでお示します。MBスコアからABCDの4段階で判定を行います。



MBスコア	判定	評価
0.0~2.4	A	比較的低いがんのリスク
2.5~4.9	B	普通のがんのリスク 成人の日本人の罹患率と同程度のリスク
5.0~7.4	C	やや高いがんのリスク 要経過観察として該当部位を気にかけてお過ごしください。
7.5~10.0	D	高いがんのリスク お住まいの市区町村で実施されている「がん検診」の受診をお勧めします。詳細は市区町村の保健福祉窓口にお問い合わせください。

下の表は各判定ごとのがんである可能性を部位別に表にしたものです。B判定は日本人が1年間に新たにがんと診断される割合(罹患率)と同程度のがんのリスクとなります。D判定の方は罹患率と比較してがんの可能性が高くなっているため、「がん検診」の受診をお勧めします。

メタロ・バランスがんリスク検査は、現在がんである可能性を判定したものであり、がんの診断の検査ではありません。下表の数値が示す通り、A判定でもがんが見つかる可能性はありますし、D判定でもがんではない確率が十分あることをご承知ください。

男性の場合							
判定基準別確率	大腸	胃	肺	肝臓	すい臓	前立腺	
1年間にがんになる人(※)	500人に1人	800人に1人	800人に1人	2,600人に1人	3,000人に1人	700人に1人	
MB検査	A	3,000人に1人	6,000人に1人	6,000人に1人	24,000人に1人	26,000人に1人	5,000人に1人
	B	500人に1人	700人に1人	800人に1人	2,700人に1人	2,800人に1人	600人に1人
	C	200人に1人	300人に1人	200人に1人	600人に1人	700人に1人	200人に1人
	D	18人に1人	22人に1人	18人に1人	38人に1人	56人に1人	34人に1人

女性の場合										
判定基準別確率	大腸	胃	肺	肝臓	すい臓	乳	子宮頸	子宮体	卵巣	
1年間にがんになる人(※)	900人に1人	2,100人に1人	1,700人に1人	8,000人に1人	4,100人に1人	500人に1人	1,400人に1人	3,100人に1人	4,200人に1人	
MB検査	A	7,000人に1人	19,000人に1人	14,000人に1人	209,000人に1人	44,000人に1人	2,000人に1人	7,000人に1人	16,000人に1人	34,000人に1人
	B	900人に1人	2,000人に1人	1,700人に1人	8,600人に1人	4,100人に1人	600人に1人	1,400人に1人	3,100人に1人	3,800人に1人
	C	200人に1人	500人に1人	400人に1人	1,400人に1人	800人に1人	200人に1人	400人に1人	800人に1人	1,100人に1人
	D	27人に1人	57人に1人	33人に1人	89人に1人	53人に1人	42人に1人	68人に1人	76人に1人	74人に1人

※罹患率は1年間に新たにがんと診断される人の割合です。2018年全国の20~79歳の統計の値より